

土砂災害に備える

土砂災害の種類とその前兆現象

土砂災害が発生するおそれのある区域として、土砂災害警戒区域等を県が指定しています。
※佐賀県が令和8年3月までに告示した、急傾斜地の崩壊、土石流の土砂災害警戒区域等を示しています。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。
危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

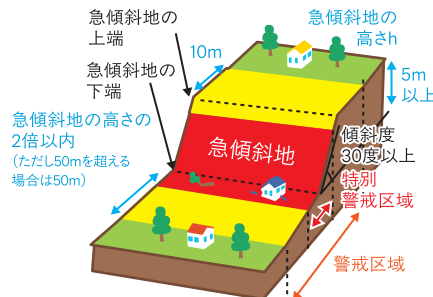
がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。
特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

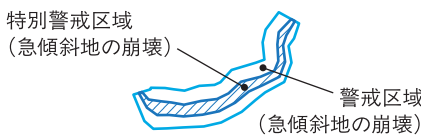
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

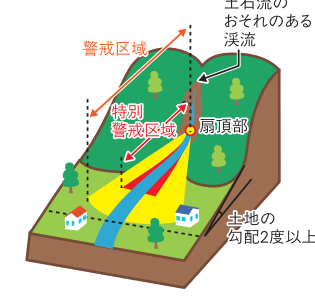
- がけに割れ目が見える。
- がけから水が噴出する。
- がけから小石がパラパラ落ちてくる。

土石流

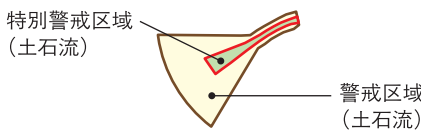
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

- 山鳴りがする。
- 川の水が濁り、流木が混ざりはじめる。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

避難のポイント(土砂災害)

屋外に避難する場合

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)を通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。



雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

土砂キキクル

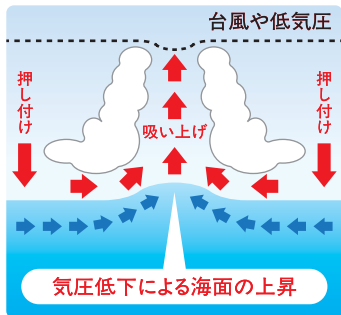


高潮に備える

高潮発生仕組み

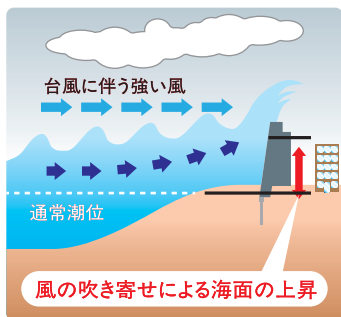
吸い上げ効果

台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。



吹き寄せ効果

台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。



高潮の被害を受けやすい場所

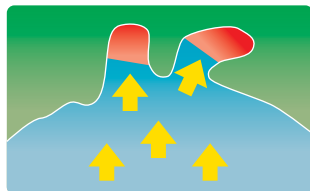
河口のまわり

高潮の被害と河川の氾濫など、危険が重なる。



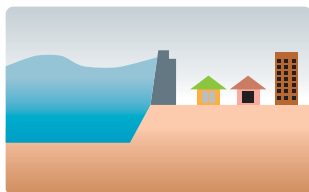
湾の奥

押し寄せた海水がたまり、湾内の水位が上がる。



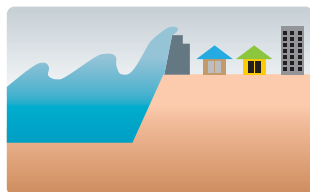
ゼロメートル地帯

平均海面より低い土地は浸水の危険性が高い。



急に深くなる海底地形

押し寄せた波が海岸の近くで一気に高くなる。



台風の大きさと強さ

台風の大きさは、強風域(風速15m/s以上の強い風が吹いているか、地形の影響などがない場合に吹く可能性のある範囲)の半径で表し、台風の強さは、最大風速で区別しています。台風に関する情報の中では、台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で非常に強い台風」のように呼びます。

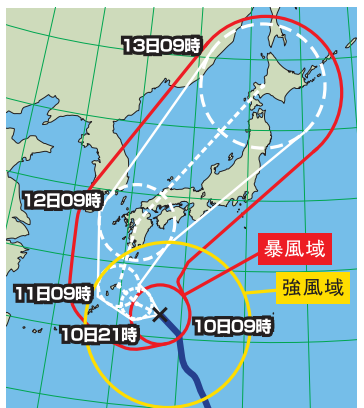
●大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

●強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

●台風情報の例



西側でも、地形によって高潮が発生する可能性がありますので、油断は禁物です。

風向



東側では、風が特に強くなるため、高潮が異常に発達する可能性が高くなります。

避難のポイント(高潮)

！ 気象情報に注意

台風接近の数日前から気象情報や市からの情報に注意しましょう。



！ 危険を感じたら早めに行動しましょう。

昼間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、市から避難情報呼びかけます。



！ 海沿いへ様子を見に行くのはやめましょう。

高波に飲み込まれるおそれがあります。

